

表 6-3-1 疾病別休職者数

(単位：人)

区分	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51
精神，神経疾患		15	15	18	10	13	9	10	19	15	6	12
胃・腸，その他消化器疾患		13	8	15	5	5	3	4	6	1	5	14
脳，高血圧，心臓疾患		10	10	26	18	17	14	34	28	12	7	10
呼吸器疾患（結核を除く）		2	1	1	2	—	1	2	1	1	2	1
その他		29	49	106	62	76	28	61	17	42	27	41
計		69	83	166	97	111	55	111	71	71	47	78

注：「教育年報」(昭41～昭50)，「保健体育課調査」(昭51)による。

表 6-3-2 教職員の入・通院状況

(単位：件，日)

区分	年度	44	45	46	47	48	49	50	51
入院	件数	3,603	3,507	3,553	3,475	3,048	3,305	2,867	2,888
	日数	58,326	55,614	58,110	52,538	53,161	53,036	46,527	44,048
外来	件数	117,462	116,575	111,209	121,442	122,511	122,610	121,266	119,515
	日数	404,443	386,426	347,169	379,025	376,549	361,372	357,619	339,314

注：「福利課調査」(昭51)による。

表 6-3-3 成人病予防検診の受診者数

(単位：人)

区分	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51
成人病予防検診		2,099	2,581	3,128	3,840	4,043	4,849	5,552	7,349	10,002	9,291	10,037
人間ドック		138	161	174	184	252	247	275	699	1,000	1,150	1,245
へき地巡回検診		—	174	582	354	849	903	1,093	1,293	1,585	1,548	1,462
婦人科健康診断		—	—	—	333	517	803	1,764	2,044	2,684	3,534	3,744

注：「教育年報」(昭41～昭50)，「保健体育課及び福利課調査」(昭51)による。

また，教職員の入・通院状況を昭和44年度から昭和51年度までの件数及び日数の推移からみると，入院の件数及び日数は，ほぼ減少傾向を示し，昭和51年度において，それぞれ 2,888件，44,048日となっている。

外来の件数は，ほぼ横ばい状況で，その日数は，緩慢な減少傾向を示し，昭和51年度においてそれぞれ 119,515件，339,314日となっている(表 6-3-2)。

一方，成人病予防検診の受診状況を，昭和41年度から昭和51年度までの受診者数の推移でみると，成人病予防検診，人間ドック，へき地巡回検診(検診車による検診及び血液による健康検査)婦人科健康診断のいずれにおいても，逐年受診者数が増加している(表 6-3-3)。

特に，成人病予防検診については，「学校保健法施行規則の一部改正」(昭49)により，40歳以上の教職員の検診(血圧，尿，胃)が昭和49年度から義務化されている。

以上の状況は，成人病予防検診の受診者数の増加に伴って，疾病による休職者数が昭和43年度以降減少ぎみにあり，また，入院件数もほぼ減少傾向にあつて望ましい状況を示すものであるが，更に，成人病予防検診事業の充実の必要性も認められる。